

私の見た最近の霞ヶ浦

(昭和49。6。23「土浦の自然を守る会」にて
の講演要旨)

坂 本 清

私は美浦村大山に生まれ、大山で育ち、年に何回となく霞ヶ浦に来て、周辺を歩いている医者です。今年も既に40日、霞ヶ浦に来ております。今回、佐賀先生の御希望により、私の見た最近の霞ヶ浦について、感じたままを申し上げることに致します。

頂いた時間が大変少ないので、詳しいことは御希望があれば、いつでも申し上げることにして、今日は重点的に申し述べます。

◇野ざらしになっている家畜の排泄物

先ず出島村、ここは7日間以上を費して歩きました。その間に気がついたことは、第一に家畜の排泄物のことで、豚、乳牛、鶏。村の約半数は畜産農家。田伏あたりでは、マスクをかけずに1時間もおると、その悪臭で頭が痛くなって、めまいがしました。豚の排泄物の野ざらしの山は、豚小屋よりも大きいものが見られました。

(野ざらしの豚糞の山の写真供覧)

霞ヶ浦に流れる細流は、殆どが排泄物で濃褐色になった水が流れ、水田も濃褐色の水で被われている所が、珍らしくありません。(濃褐色の水の流れているホソと、濃褐色の水で被われている水田の写真供覧) 稲は窒素過多になって稔る前に倒れて米にならない。やむを得ず蓮根が栽培されている。きたなくて蓮を掘りにも入れないとポヤイている農婦にも会いました。

又、霞ヶ浦の波打際に千羽位の養鶏場があつて、その糞は風雨で直接霞ヶ浦に流れ出す懸念のある所もあります。(波打際の養鶏場の写真供覧)

玉里村も、出島村と殆ど同様であると云うし、小野川の上流も汚濁そのものです。

◇川に漂うヘドロの膜

石岡市の中心を流れている山王川は、霞ヶ浦に流入する河川の中で、一番ひどいと云うが、あの悪臭は5分間とがまんができません。慣れと云うものは恐ろしいもので、出島でも、山王川でも、土地の人はよまいごとを云いながら、そこに住んでいる。(山王川の明治末期と現在の写真供覧：明治末期の写真は渡辺宏氏の御厚意による)

山王川に限らず、細い川は、水がヘドロの上を僅かに流れている。上澄はきれいなように見えるが、下にはへ